

# ふるさと Something NEWS

## 第9回

### URの団地に求める新機軸 ——「ふるさと」としての団地の可能性

一般社団法人 光楓座  
一般社団法人 e f c o . j p  
代表理事 佐藤建吉

#### ▼スターハウスに引越し

令和の時代への以降に合わせ、筆者はセカンドハウスの地を変えた。埼玉眞春日部市から千葉県松戸市へ、である。新しい住居は、UR（独立行政法人都市再生機構）の団地である。これまで20回以上も住居地を変えてきたが、いわゆる団地暮らし初めてである。

ハウスと呼ばれていた。松戸市の常盤平団地上を越える大木となり、は、1960～62年（昭和）秋には実を付けるという。この間、O氏は、他年数が60年になるが、スターハウスの10棟が現役である。5階建て、1棟が15世帯、全体では150世帯であるが、箱形の一般的な棟タイプにくらべ世帯当たりの土地利用効率（容積率）が低く、取り壊される状況の中で、貴重な存在である。

成長を支えた家庭の歡喜が、再び溢れるようになってほしい。

#### ▼URの環境エネルギー対策

ルネサンスを意識したURのWebには、『環境配慮方針』として、

「①環境にやさしいまちや住まいをつくります」「②環境に配慮して事業をすすめます」ともある。前者の「①環境に

「URの地球温暖化対策の枠組み」という取り組みもある。これも、賃料標準と格差があるものもあり、その解決が急務である。が、対策を近視眼的に行うことなく、未来

を先取りし、かつ遅れをとらないようにすること。その意味では、SDGsとは同歩調を進める必要がある。また効果があるだろう。

光発電には好適地である。何よりも広大な面積が、首都圏や大都市近郊にあるので、前述した『地球温暖化対策の枠組み』にあるように、住民や民間事業者との連携で、既存団地の屋上での太陽光発電の実施を提案したい。

#### ▼URは都市ルネサンス

この団地に引越してきて、早速知り合いになったO氏は、ここに50年も住んでいるという。入居時は、2層くらいだった

「ふるさと」が、団地という人も多いはずだ。世帯を超えた団地の暮らし、そして街（まち）が、求められている。

事実、URのWebを見ると、「多様な世代が生き生きと暮らし続ける住まひ・まち（ミキ）ストコミュニティ」の実現」とある。O氏のように、いわゆる独居老人が不都合のない団地暮らしを実現する必要がある。

今回、初めて知ったが、URは Urban Renaissance Agencyからの略称で、都市再生機構が法人名である。「ルネサンス」の言葉を重ねたURの団地から、日本の経済

さらに、「太陽エネルギーを活用する」があり「太陽光パネルを建物の屋上などに設置して、発電させた電力を共用廊下の照明、集会所の空調電源などに利用しています」とある。

その先進的取組みが、東京都町田市のニュータウン小山田桜台団地での35メガワットソーラーである。25棟の屋上の8200平方メートルで、平成26年から発電しているという。URパワーという発電会社が事業化しているようだ。

URは、住宅公団時代からの物件のうち47万戸は40年を経過した高齢団地であるという。現在、URが管理する住居は65万戸を超える。公団（UR）の団地は、棟間が広く、階数も揃って建設されているので、太陽

蓄電やバックアップ設備を整備し、防災や避難対策エリアとしても合致する。「愛着のふるさと」に、「安全安心のふるさと」に、再生発展されることを望みたい。

引越した、Yの字型の5階建スターハウスの外観



今回、初めて知ったが、URは Urban Renaissance Agencyからの略称で、都市再生機構が法人名である。「ルネサンス」の言葉を重ねたURの団地から、日本の経済

さらに、「太陽エネルギーを活用する」があり「太陽光パネルを建物の屋上などに設置して、発電させた電力を共用廊下の照明、集会所の空調電源などに利用しています」とある。

その先進的取組みが、東京都町田市のニュータウン小山田桜台団地での35メガワットソーラーである。25棟の屋上の8200平方メートルで、平成26年から発電しているという。URパワーという発電会社が事業化しているようだ。

URは、住宅公団時代からの物件のうち47万戸は40年を経過した高齢団地であるという。現在、URが管理する住居は65万戸を超える。公団（UR）の団地は、棟間が広く、階数も揃って建設されているので、太陽

蓄電やバックアップ設備を整備し、防災や避難対策エリアとしても合致する。「愛着のふるさと」に、「安全安心のふるさと」に、再生発展されることを望みたい。

蓄電やバックアップ設備を整備し、防災や避難対策エリアとしても合致する。「愛着のふるさと」に、「安全安心のふるさと」に、再生発展されることを望みたい。